

Sat. Jul 8, 2017

Poster Presentation Area

Poster(multiple job category) | 家族支援

Poster (multiple job category) 1 (II-TRP1)

Chair:Mitsuyo Wada(Shizuoka Children's Hospital)

6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[II-TRP1-01] 心疾患産婦と非心疾患産婦の育児状況に関する調査

○福岡 睦子¹, 桂木 真司² (1.榊原記念病院 看護部, 2.榊原記念病院 産婦人科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-02] 先天性心疾患と出生前診断を受けた妊婦の支援の検討～ PICU看護師の出生前訪問を振り返って～

○福田 あずさ¹, 荒木 美樹¹, 平田 裕香¹, 福島 富美子¹, 田中 健佑², 下山 伸哉², 宮本 隆司³, 小林 富男² (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 循環器科, 3.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-03] PICUに入室した子どものプライバシーに対する家族の意識調査

○細野 由華, 高井 史子, 長柄 美保子 (岐阜県総合医療センター)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-04] 先天性心疾患を合併した予後不良な奇形症候群への終末期医療への関わり

○田倉 麻衣¹, 池田 治美¹, 増尾 来美¹, 野村 朱里¹, 関美穂子¹, 水野 将徳², 都築 慶光², 吉岡 千恵子¹, 吉川 喜美枝¹, 麻生 健太郎² (1.聖マリアンナ医科大学 看護部, 2.聖マリアンナ医科大学 小児科)

6:15 PM - 6:40 PM

Poster(multiple job category) | 家族支援・ケア実践

Poster (multiple job category) 2 (II-TRP2)

Chair:Atsuko Morisada(Kurashiki Central Hospital)

6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[II-TRP2-01] 患者、家族のニーズにあった情報提供を目指す

○大石 志津 (静岡県立こども病院)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-02] 先天性心疾患児をもつ外国人家族のニーズ～A病院 PICUの外国人家族に対する支援策を見出すための現状把握～

○金子 友加里¹, 樋口 沙織¹, 福島 富美子¹, 笹原 聡豊², 下山 伸哉³, 宮本 隆司², 小林 富男³ (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科, 3.群馬県立小児医療センター 循環器内科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-03] 先天性心疾患児をもつ家族へのサポートグループの導入

○小川 理絵子¹, 小田 巻 由夏¹, 嶋田 一樹², 水島 みゆき², 倉橋 郁乃¹, 大石 知亜美¹, 新井 希¹, 中村 泉¹ (1.静岡県立こども病院 循環器病棟, 2.静岡県立こども病院 心理療法室)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-04] 先天性心疾患術後患児のライン事故除去予防ならびに身体抑制に関するカンファレンス導入効果

○北山 未央¹, 矢鋪 恵理¹, 千原 由衣¹, 北浦 可陽¹, 西綾子¹, 辻 展行¹, 吉田 真寿美¹, 荒木 幹大², 石丸 和彦², 田口 利恵¹, 中村 常之³ (1.金沢医科大学病院 集中治療室, 2.金沢医科大学 小児心臓血管外科, 3.金沢医科大学 小児循環器内科)

6:15 PM - 6:40 PM

Sun. Jul 9, 2017

Poster Presentation Area

Poster(multiple job category) | 教育・管理

Poster (multiple job category) 3 (III-TRP3)

Chair:Fujiyo Miwa(Fukuoka Children's Hospital)

1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[III-TRP3-01] CCU病棟におけるバンコマイシン TDMの取り組み

○池谷 健一, 坪井 彩香, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-02] CCU病棟における薬剤師業務

○坪井 彩香, 池谷 健一, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-03] 小児心疾患患児の術前多職種カンファレンスに対する看護師の意識調査

○仁平 かおり¹, 竹内 美穂¹, 杉澤 栄² (1.筑波大学附属病院 看護部, 2.関西医科大学附属病院 看護部)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-04] 新人看護師に対するOJTの有効性-内服薬の投与後の経胃管チューブの閉塞によるインシデントからの考察

○春日 美緒, 佐藤 里絵子, 新井 聡美, 住友 直方 (埼玉医科大学国際医療センター)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-05] 循環器集中治療室におけるクリニカルラダーの見直し

○山田 尚美, 佐野 仁美, 山下 直人, 望月 美佐, 杵塚 美知 (静岡県立こども病院 循環器集中治療室)

1:00 PM - 1:30 PM

Poster(multiple job category) | 心理・プレパレーション

Poster (multiple job category) 4 (III-TRP4)

Chair:Kana Harada(Toho University Omori Medical Center)

1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[III-TRP4-01] 長期入院によるストレスを自傷行為で表現した子どもへの看護ケアの実際

○岸田 千春, 上甲 貴江, 平野 麻美子 (広島市民病院)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-02] プレパレーションを用いた採血方法の工夫—1歳の拘束型心筋症児への関わり—

○浜本 知美, 小谷 弥生, 都丸 八重子 (群馬県立小児医療センター)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-03] 重症な成人先天性心疾患患者の終末期の心理的支援—1事例の心理面接から

○松尾 加奈, 大内 秀雄, 根岸 潤, 鍛冶 弘子, 白石 公 (国立循環器病研究センター)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-04] 術後に活かせる術前訪問の検討

○大石 志津, 杵塚 美知, 旗持 真理子 (静岡県立こども病院)

1:00 PM - 1:25 PM

Poster(multiple job category) | 家族支援

Poster (multiple job category) 1 (II-TRP1)

Chair:Mitsuyo Wada(Shizuoka Children's Hospital)

Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[II-TRP1-01] 心疾患産婦と非心疾患産婦の育児状況に関する調査

○福間 睦子¹, 桂木 真司² (1.榊原記念病院 看護部, 2.榊原記念病院 産婦人科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-02] 先天性心疾患と出生前診断を受けた妊婦の支援の検討～ PICU看護師の出生前訪問を振り返って～

○福田 あずさ¹, 荒木 美樹¹, 平田 裕香¹, 福島 富美子¹, 田中 健佑², 下山 伸哉², 宮本 隆司³, 小林 富男² (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 循環器科, 3.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-03] PICUに入室した子どものプライバシーに対する家族の意識調査

○細野 由華, 高井 史子, 長柄 美保子 (岐阜県総合医療センター)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-04] 先天性心疾患を合併した予後不良な奇形症候群への終末期医療への関わり

○田倉 麻衣¹, 池田 治美¹, 増尾 来美¹, 野村 朱里¹, 関 美穂子¹, 水野 将徳², 都築 慶光², 吉岡 千恵子¹, 吉川 喜美枝¹, 麻生 健太郎² (1.聖マリアンナ医科大学 看護部, 2.聖マリアンナ医科大学 小児科)

6:15 PM - 6:40 PM

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP1-01] 心疾患産婦と非心疾患産婦の育児状況に関する調査

○福間 睦子¹, 桂木 真司² (1.榊原記念病院 看護部, 2.榊原記念病院 産婦人科)

Keywords: 心疾患産婦, 産褥期育児生活肯定感尺度, アンケート調査

【背景】 A院心疾患産婦は NYHA 1 が多く、妊娠分娩時管理は必要だが産後は通常産婦と同様のケアを行っている。産後は生活環境、心身の急激な変化、疲労感増大や睡眠量減少を生じる。それらと産後の育児状況の関連性を考え、産後生活・家族サポート状況、ニーズを知ることで今後の支援を考えることとした。【目的】 妊娠～産後1ヶ月の育児生活、本人の希望支援、家族の支援現状を明らかにする。【方法】 調査期間2016年8月。自記式アンケート調査。A院出産の1年以内の心疾患産婦・非心疾患産婦、計100名を対象者とした。EXCEL2010を使用し統計処理を行った。倫理的配慮として当院倫理委員会の承認を得て調査を実施した。【結果】 心疾患産婦16名、非心疾患産婦39名（回収率55.0%）の回答を得た。産後1ヶ月間に一緒にいた支援者は、心疾患産婦：夫56.3%、非心疾患産婦：実母51.3%だった。産褥期育児生活肯定感尺度改訂版より「親としての自信」「自己肯定感」「生活適応」「夫のサポートに対する認識」の4因子を検討したが、今回の調査では全体として「親としての自信」得点が高く、経産婦に「自己肯定感」得点が高い傾向にあった。心疾患産婦では「生活適応」得点が高い傾向があったが「夫のサポートに対する認識」得点は高い傾向であった。非心疾患経産婦では「夫のサポートに対する認識」得点がやや低い傾向であった。【考察】 親としての満足感は、初産婦では育児行動に対する自信、経産婦では肯定的な自己評価と密接な関係を持ち、夫との関係性が母親の育児生活感情に大きく影響があると言われているが、今回も同様の結果がみられたと思われる。しかし、生活適応に関して心疾患産婦の得点が高い傾向にあり、通常の産後生活による心身の負担が大きいのではないかと推察された。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP1-02] 先天性心疾患と出生前診断を受けた妊婦の支援の検討～

PICU看護師の出生前訪問を振り返って～

○福田 あずさ¹, 荒木 美樹¹, 平田 裕香¹, 福島 富美子¹, 田中 健佑², 下山 伸哉², 宮本 隆司³, 小林 富男² (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 循環器科, 3.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科)

Keywords: 出生前診断, 家族支援, 出生前訪問

【背景】 A病院では胎児家族支援ワーキンググループが活動しており、家族との関わりをカンファレンスシートに記載し継続的な支援を行っている。胎児が先天性心疾患（以下 CHDと略す）と診断された場合、小児集中治療部（以下 PICUと略す）看護師が家族に出生前訪問とパンフレットを用いた PICUのオリエンテーションを行っている。

【目的】 出生前訪問とパンフレットの内容を評価し出生前訪問時に求められるニーズを明らかにし、現在使用しているパンフレットの妥当性を検討する。

【方法】 平成24年10月～平成28年8月の間に CHDを疑われ A病院へ紹介受診となり、出生直後に児が PICUに入院した母親51名を対象とし、

1. 「出生前訪問」「配布したパンフレット」に関する質問紙調査を実施。質問紙回収後、記述統計量の集計とカテゴリー分類を行った。
2. カンファレンスシートを後方視的に振り返った。

所属施設の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】 対象者のうち23名（45.1%）から研究の同意が得られた。PICU看護師が産科外来に訪問したことを記憶していた母親は82.6%で「PICUの雰囲気わかった」という回答が半数であった。PICU看護師の訪問を全員が「必要」と答えており、その理由は「心配・不安の軽減につながる」「PICUの雰囲気を把握できる」がそれぞれ

65.2%。PICU入室前に知りたい情報は「入院中の児に母としてできること」「面会の頻度」「出生後の児の様子や管理方法」という回答であった。カンファレンスシートには「入院期間」「赤ちゃんの持ち物」についての質問項目が多かった。

【考察】出生前訪問の必要性は確認できたが、現在の出生前訪問とパンフレットでは必要な情報が網羅されていなかった。今後はこの調査結果を基に出生前訪問の内容の見直しとパンフレットの改訂を行い、母親とその家族の思いに沿った看護を提供していく必要がある。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP1-03] PICUに入室した子どものプライバシーに対する家族の意識調査

○細野 由華, 高井 史子, 長柄 美保子 (岐阜県総合医療センター)

Keywords: プライバシー, PICU, 家族

【背景】A病院小児集中治療室(以下PICUとする)では、オープン病床であり、ケアや処置時、家族の面会時などはパーテーションを使用して子どものプライバシー保護に配慮している。しかし、パーテーションを使用して空間の確保をしても隣のベッドの会話が聞こえている可能性があり、家族はそのような現状をどのように思っているのかと疑問に感じた。【目的】PICUに入室した子どものプライバシーについて家族がどのように捉えているのかを明らかにし、今後のプライバシーに関する看護のあり方を検討する。【方法】2016年4月～2016年12月の間にPICUに入室した経験のある子どもの母親30人を対象に独自に作成した質問紙によるアンケート調査とプライバシーに関する認識などを面接で聞き取った。本研究は所属機関の看護研究倫理審査委員会の承認を得た。【結果】プライバシーに関する質問では、全ての項目で「不快ではない」または「どちらかといえば不快ではない」との回答者が84%～97%であり、自由記述の結果でも「プライバシーは気にならない」など意見があげられた。一方で、8項目の質問のうち、とても不快という回答がみられた項目が、「面会中、他の家族が大きな声を出して話す」、「面会中、医療従事者が大きな声を出して話す」の2項目であった。PICU入室経験による比較では、初回群と入室経験ありの群の2群間で有意差をもって入室経験ありの群でプライバシー侵害意識の程度が高かった($p=0.026$)。【考察】パーテーションを使用することで空間の確保はできるが、家族や医療者の話し声によるプライバシー侵害があると家族は感じており、ベッドサイドで話をする際はできるだけ他の家族がいない時に話したり、音量を考慮して話すなどの配慮をすることで子どものプライバシーをより保護できると考える。【結論】家族の捉え方としては個人差があるが、家族や医療者の話し声によるプライバシー侵害があると感じていた。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP1-04] 先天性心疾患を合併した予後不良な奇形症候群への終末期医療への関わり

○田倉 麻衣¹, 池田 治美¹, 増尾 来美¹, 野村 朱里¹, 関 美穂子¹, 水野 将徳², 都築 慶光², 吉岡 千恵子¹, 吉川 喜美枝¹, 麻生 健太郎² (1.聖マリアンナ医科大学 看護部, 2.聖マリアンナ医科大学 小児科)

Keywords: 奇形症候群, 終末期医療, 姑息手術

【緒言】小児において先天性心疾患(CHD)を合併する予後不良な奇形症候群は多数存在し、心疾患への侵襲的な治療介入が患児、家族の利益となるか判断は難しい。今回、CHDを有する奇形症候群で手術介入を経て在宅へ移行し、終末期医療にかかわることができた症例を経験したため報告する。【倫理的配慮】倫理委員会の承認を得て

から当事例の患者家族へ研究を行うことを口答、紙面にて説明し同意を得た。【症例1】2歳、女児、ファロー四徴症、染色体異常。(出生後の染色体検査にて診断)。ご両親は、長期生存は見込めない症候群と理解したうえで、在宅へ移行するための治療介入を希望された。生後約半年でBT shunt術、1歳時に気管切開術施行し、呼吸苦に対しモルヒネを導入した上で、退院となった。退院半年後、栄養管理困難となり、改めて終末期医療の説明を行いご両親の意向を確認したところ、自宅での見取りを希望された。訪問看護と連携を取り、往診医に入っただき、約6ヶ月後永眠された。【症例2】2歳、男児、福山型筋ジストロフィー、両大血管右室起始症、肺動脈狭窄症。出生後、筋疾患の疑いがあったが、NICUでは診断には至らず、CHDに対し、約10日後にBTshunt術を施行し、6ヶ月でNICUを退院した。退院後、遺伝子検査にて福山型筋ジストロフィーと診断、ご両親へ、予後不良な疾患である事を説明し理解したうえで、積極的介入は望まれず疼痛緩和の介入を希望された。2歳時、インフルエンザを契機に呼吸不全となり挿管管理を行ったが、それ以上の介入は望まれず、永眠された。【考察】CHDへの介入は侵襲的ではあるが、在宅医療へ移行できたことは、患児と家族にとって最善の利益であったことは間違いなく、家族の意向に十分に添うことができた。小児奇形症候群に対する治療方針は明確なものはないが、患児や家族の最善の利益が得られるように考えていく必要がある。

Poster(multiple job category) | 家族支援・ケア実践

Poster (multiple job category) 2 (II-TRP2)

Chair:Atsuko Morisada(Kurashiki Central Hospital)

Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[II-TRP2-01] 患者、家族のニーズにあった情報提供を目指す

○大石 志津 (静岡県立こども病院)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-02] 先天性心疾患児をもつ外国人家族のニーズ ~ A病院 PICUの外国人家族に対する支援策を見出すための現状把握~

○金子 友加里¹, 樋口 沙織¹, 福島 富美子¹, 笹原 聡豊², 下山 伸哉³, 宮本 隆司², 小林 富男³ (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科, 3.群馬県立小児医療センター 循環器内科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-03] 先天性心疾患児をもつ家族へのサポートグループの導入

○小川 理絵子¹, 小田巻 由夏¹, 嶋田 一樹², 水島 みゆき², 倉橋 郁乃¹, 大石 知亜美¹, 新井 希¹, 中村 泉¹ (1.静岡県立こども病院 循環器病棟, 2.静岡県立こども病院 心理療法室)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-04] 先天性心疾患術後患児のライン事故抜去予防ならびに身体抑制に関するカンファレンス導入効果

○北山 未央¹, 矢鋪 恵理¹, 千原 由衣¹, 北浦 可陽¹, 西 綾子¹, 辻 展行¹, 吉田 真寿美¹, 荒木 幹大², 石丸 和彦², 田口 利恵¹, 中村 常之³ (1.金沢医科大学病院 集中治療室, 2.金沢医科大学 小児心臓血管外科, 3.金沢医科大学 小児循環器内科)

6:15 PM - 6:40 PM

6:15 PM - 6:40 PM (Sat, Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP2-01] 患者、家族のニーズにあった情報提供を目指す

○大石 志津 (静岡県立こども病院)

Keywords: 家族支援, コミュニケーションツール, 情報提供

【背景】循環器集中治療室では入院中の過ごし方や退院後の生活について、症状に合わせたパンフレットを用いて説明しているが、急性期の家族は精神的な余裕が無いため、看護師が提供する情報を受け止められず情報が伝わりにくい。入院中や退院後の生活をイメージしやすくする方法の一つとして、病棟内にある掲示板を使用し、情報を提供することを考えた。【目的】掲示板を活用し、患者、家族のニーズにあった情報を提供する【方法】病棟スタッフ間で、どのような情報を提供するかを決定し、多職種の協力を得て写真や紹介文を掲示。退院指導の一つであるBLSの様子や、状態が安定後転棟する病棟の紹介、他部門の活動内容などを提示。掲示が2回更新された後、患者、家族へ質問紙調査の実施。本研究は倫理委員会の承認を得ている。【結果】研究対象者8組中8組より回答を得る。掲示の内容は、87%が参考になったと答え、掲示は続けたほうが良いという回答であった。家族の反応として、BLSのイメージができた、転棟する予定の病棟の雰囲気伝わったという感想が聞かれた。また、今後掲示して欲しい内容では、病院のインフォメーション、各部門の紹介や活動内容、病棟のお知らせ、というニーズが得られた。【考察】家族が精神的な余裕を持たせた時に、病棟内の掲示板から視覚的情報が得られ、入院中や退院後の生活を考えるきっかけになり、掲示板を有効活用できたと考える。また多職種と掲示物内容を検討したことで、患者、家族に必要な情報の提供ができたと思われる。さらに、家族は、発信した情報から入院中や退院後の生活がイメージしやすくなり、具体的な質問や不安の表出ができるようになったと考える。掲示板の情報提供方法を見直したことで、家族への情報が伝えやすくなり、有効なコミュニケーションツールの一つになったと考える。【結論】効果的な情報発信は、看護の役割であり、掲示板は容易に活用できるツールのひとつである。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat, Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP2-02] 先天性心疾患児をもつ外国人家族のニーズ～A病院 PICUの外国人家族に対する支援策を見出すための現状把握～

○金子 友加里¹, 樋口 沙織¹, 福島 富美子¹, 笹原 聡豊², 下山 伸哉³, 宮本 隆司², 小林 富男³ (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科, 3.群馬県立小児医療センター 循環器内科)

Keywords: PICU, 先天性心疾患, 外国人家族

【背景】A病院 PICUには先天性心疾患(CHD)や心臓外科手術後の重症患者が入院している。入院患者には外国人もいるが、日本人でも理解するのが困難な病状・術式や各種説明が正しく伝わったか、入院中に困惑させた事はなかったかを改めて調査していない。そこで入院中の外国人家族のニーズについて現状把握が必要と考えた。【目的】CHD児をもつ外国人家族のニーズを明らかにし、入院中に必要な支援策を見出す。【方法】日本語で日常会話が可能で外国人家族(フィリピン・中国・ブラジル)に半構造化面接を実施、そのデータから類似しているニーズをカテゴリー化し内容分析した。【倫理的配慮】対象者に個人情報の守秘など口頭・書面で説明し同意を得ると共に、院内の倫理委員会の承認を得て行った。【結果】回答から、収入格差によらない医療、医師による患者の病状・手術説明、看護師による入院・病棟案内、プライバシーへの配慮、家族の要望、病院の設備・体制、の6カテゴリーが抽出された。【考察】対象者の母国では、受けられる医療が収入により左右されていたが、日本では保健医療制度で全患者が治療を受けられるため医療に対する要望は満たされていた。医療者からの説明では「図・絵・模型を用いた視覚的資料」が有効であったが、「日本語の説明文の理解に時間がかかった」との記述から、文面での説明を分かりやすくする必要がある。また「宿泊棟や小児集中治療室があること」で病院設備への満足は得られたが、「プライバシーに配慮して欲しい」や「処置中も側にいたい」「説明を受ける時同胞をみて欲しい」という家族の要望も明らかになった。これらは、外国人家族だけでなく入院中の全

家族に共通するニーズであり、病院全体として取り組む必要がある。【結論】日本語での説明は視覚的資料を用いることが有効だった。また調査で得られたニーズは、外国人家族だけではなく入院中の全家族に共通するニーズだった。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP2-03] 先天性心疾患児をもつ家族へのサポートグループの導入

○小川 理絵¹, 小田 巻 由夏¹, 嶋田 一樹², 水島 みゆき², 倉橋 郁乃¹, 大石 知亜美¹, 新井 希¹, 中村 泉¹ (1.静岡県立こども病院 循環器病棟, 2.静岡県立こども病院 心理療法室)

Keywords: 家族のピアサポート, 心理士の介入, 家族ダイナミクス

【背景】先天性心疾患児をもつ家族は、育児や療育に対する不安が大きく、退院後の生活をイメージすることが難しい。【目的】家族同士が感情を吐露することで、先天性心疾患児を持つ家族の自責の念や、孤独感を軽減し、退院について肯定的に考えるきっかけを作る。【研究方法】対象:A病院入院中の先天性心疾患児の両親、主に初回入院の新生児の家族。方法1.看護師から疾患に関連する制度など10分間の講義後、心理士と看護師を含めた10人以内のサポートグループを構成し90分の語りを実施する。2.語りの後、アンケートや面談から、家族の想いを抽出し、サポートグループの語りをもたらず影響を質的に検討する。【倫理的配慮】A病院の倫理審査の承認を得ている。【結果】語りの内容は“自己紹介”“児の診断を受けた時の気持ち”“今の想い”“今悩んでいることや感じていること”などの項目を、その時のグループの会話の流れを考慮して展開した。実施後、回答を得た全員が参加してよかったと答えた。理由は“悩んでいるのは自分達だけではないと気付いたこと”“同じように大変な思いをしても前向きにとらえようとしている家族がいることを知ったこと”“手術を経験した家族に勇気づけられたこと”などがある。また“もっと早い段階で会に参加できればよかった”“次も機会があれば参加したい”との意見があった。【考察】サポートグループは、家族にとって安全な場として認識され、感情を吐露することで安寧をもたらし、不安を軽減させる。グループダイナミクスによりこれからの療育に対するイメージが拡大される。【結論】サポートグループでの語りは、家族が不安を吐露し、悩みを共有し整理することで、自責の念や孤独感を軽減させるのに有効である。サポートグループでの語りは退院を肯定的に考えるきっかけには直結しないが、退院を肯定的に考えるための前段階に、有効な介入の一つである。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP2-04] 先天性心疾患術後患児のライン事故抜去予防ならびに身体抑制に関するカンファレンス導入効果

○北山 未央¹, 矢鋪 恵理¹, 千原 由衣¹, 北浦 可陽¹, 西 綾子¹, 辻 展行¹, 吉田 真寿美¹, 荒木 幹大², 石丸 和彦², 田口 利恵¹, 中村 常之³ (1.金沢医科大学病院 集中治療室, 2.金沢医科大学 小児心臓血管外科, 3.金沢医科大学 小児循環器内科)

Keywords: カンファレンス, ライン事故抜去予防, 身体抑制

【背景】当院集中治療室は、2012年7月より先天性心疾患術後患者受け入れを再開し、近年手術件数が増加している。こども専門病院と異なり成人患者も混合する集中治療室のため、試行錯誤の中、小児術後患者の受け入れ態勢を整えてきた。しかし小児術後患者におけるライン類(気管チューブ、胃管、末梢・中心静脈・動脈ライン)の事故抜去件数が増加し、予防策が急務であった。またラインの挿入位置、場所の確認は担当者のみで実施していたため2016年10月からライン事故抜去予防のカンファレンスを導入した。【目的】カンファレンス導入の効果を検討する。【方法】カンファレンスを導入しその前後でライン事故抜去の件数を調査した。実施方法は毎朝

リーダー看護師2名、担当看護師の計3名で行い、患児とラインの位置関係、当日抜去予定ラインの有無、固定による不快感等の有無、抑制を実施する場合は妥当性や代替案の有無、ライン整理、固定方法の検討に加え、留置中のすべてのラインの長さの確認を追加した。術直後は患児覚醒前にシーネ固定とライン整理を行い、四肢がラインに接触しない範囲の可動で最低限の抑制とした。また、シリンジから刺入部までを辿り緊急時の薬剤投与に対応可能なライン整理を毎日の業務とした。【結果】カンファレンス導入前後でライン事故抜去件数は2012年1/29例(3%)、2013年6/31例(19%)、2014年7/45例(15%)、2015年9/47例(19%)から2016年は2/60例(3%)へ減少した。また、特に強化したライン挿入位置確認の実施率は、カンファレンス導入後10月83.3%、11月80%、12月100%となった。【考察】ライン事故抜去予防には、カンファレンス導入により身体抑制のみを行う認識から適切なライン整理や固定方法へ視点を移し、かつ複数の異なる視点での確認と情報共有することが重要と考えられた。【結語】カンファレンス導入後、看護スタッフのライン固定に対する意識向上により、事故抜去件数を減少できた。

Poster(multiple job category) | 教育・管理

Poster (multiple job category) 3 (III-TRP3)

Chair:Fujiyo Miwa(Fukuoka Children's Hospital)

Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[III-TRP3-01] CCU病棟におけるバンコマイシン TDMの取り組み

○池谷 健一, 坪井 彩香, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-02] CCU病棟における薬剤師業務

○坪井 彩香, 池谷 健一, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-03] 小児心疾患患児の術前多職種カンファレンスに対する看護師の意識調査

○仁平 かおり¹, 竹内 美穂¹, 杉澤 栄² (1.筑波大学附属病院 看護部, 2.関西医科大学附属病院 看護部)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-04] 新人看護師に対する OJTの有効性-内服薬の投与後の経胃管チューブの閉塞によるインシデントからの考察

○春日 美緒, 佐藤 里絵子, 新井 聡美, 住友 直方 (埼玉医科大学国際医療センター)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-05] 循環器集中治療室におけるクリニカルラダーの見直し

○山田 尚美, 佐野 仁美, 山下 直人, 望月 美佐, 杵塚 美知 (静岡県立こども病院 循環器集中治療室)

1:00 PM - 1:30 PM

1:00 PM - 1:30 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP3-01] CCU病棟におけるバンコマイシン TDMの取り組み

○池谷 健一, 坪井 彩香, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

Keywords: CCU, TDM, バンコマイシン

【目的】循環器集中治療病棟(CCU)では、2013年9月から薬剤適正使用と医療安全向上を目的として病棟薬剤業務を開始した。病棟薬剤業務において抗菌薬の薬学的管理は重要な業務であり、その中でもバンコマイシン(VCM)は薬物治療モニタリング(TDM)が必要とされ、薬剤師による介入が求められる薬剤である。本研究では現在行っているVCMのTDM業務について報告する。【方法】CCUに入院しVCMを使用した患者を対象とし、患者背景(年齢、体重、体外循環装置の有無、投与目的等)、VCM血中濃度測定及び解析件数、介入率、処方変更提案率、提案受諾率を調査した。解析の精度評価を目的として、投与方法変更症例のトラフ濃度10~20 µg/mLへの到達率を調査した。なお、本研究は倫理委員会の承認を得ている。【結果】対象患者は28名であり、年齢中央値0.86歳(15日齢~17歳)、体重中央値6.02 kg (2.72~35.6 kg)、体外循環装置を使用した症例3件(体外式膜型人工肺(ECMO)・持続的血液透析濾過療法(CHDF)2件、腹膜透析(PD)1件)、投与目的は予防18件、治療15件であった。VCM血中濃度測定件数は98件であり、解析件数は44件、介入率は89%となった。また処方変更提案率は91%(増量:20件、維持または増量:1件、減量:19件)、処方変更提案に対する受諾率は98%であった。投与量変更後、血中濃度評価が可能だったのは22件、そのうち推奨トラフ濃度に到達した割合は77%だった。【考察】CCUの患者年齢は新生児から成人期と幅広く、術後の体内動態の変動や体外循環装置の使用などの特殊性もあることからTDMの重要性が再認識された。血中濃度測定患者には9割以上で介入することができ、処方提案に対してはほぼ全例で受諾された。その結果、概ね推奨トラフ濃度へ到達しており、VCMの適正使用に薬剤師が十分貢献できることが示唆された。今後はさらなる介入率及び解析精度の向上に努めていきたい。

1:00 PM - 1:30 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP3-02] CCU病棟における薬剤師業務

○坪井 彩香, 池谷 健一, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

Keywords: CCU, 病棟薬剤師業務, 薬剤管理指導

【目的】循環器集中治療病棟(CCU)は10床からなり、心臓外科術後の管理など循環器疾患に対する高度専門医療を提供している。CCU病棟では麻薬やハイリスク薬剤が多く用いられているため、以前より薬剤師による関与が医師、看護師から求められていた。そのため適正な薬剤管理と医療安全面の向上を目的として2013年9月よりCCU病棟における病棟薬剤師業務を開始した。本発表では病棟薬剤師業務の稼働状況を報告する。【方法】CCU病棟における薬剤師業務について実施件数の集計を行い、業務内容の推移と効果を検証した。本研究は倫理審査の承認を得ている。【結果】CCU病棟において担当薬剤師は、薬剤管理指導業務(服薬指導、処方鑑査、注射薬の配合変化、投与速度、副作用等のチェック、TDM等)、問い合わせ対応及び薬剤情報提供業務、麻薬・向精神薬等病棟配置薬の管理業務を実施した。業務開始当初は、流速チェック等注射薬における確認作業が主体となっていたが、徐々に配薬された内服薬の確認など内服薬への関与も多くなった。問い合わせ・疑義照会件数は経年的に上昇した。問い合わせの多かった配合変化について早見表を作成し活用した。【考察】CCU病棟に薬剤師が滞在することにより、問い合わせに対して迅速に対応できるようになった。内服薬投与時および注射薬調製・更新時のダブルチェックに薬剤師が加わることで、看護師同士で行っていた作業を異なる職種間で行うことによる医療安全の向上に繋がるものと考えられた。薬剤師による麻薬、向精神薬等の医薬品管理業務は看護師の負担軽減に繋がっていると考えられる。【結論】CCU病棟における薬剤師業務は、医師・看護師の負担軽減や医療安全に寄与する可能性が示唆された。今後は、医師・看護師との連携を充実させ医薬品の適正使用に貢献していくとともに、薬剤管理指導業務や薬剤情報提供の充実を図っていきたい。

1:00 PM - 1:30 PM (Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP3-03] 小児心疾患患児の術前多職種カンファレンスに対する看護師の意識調査

○仁平 かおり¹, 竹内 美穂¹, 杉澤 栄² (1.筑波大学附属病院 看護部, 2.関西医科大学附属病院 看護部)

Keywords: 多職種カンファレンス, カンファレンスへの意識と意欲, 質問紙調査

【背景】 A病院では2013年より先天性心疾患で心臓手術をうける小児患者を対象に術前多職種カンファレンスを実施している。各職種からの治療方針やケア計画、術前の問題点と対策などを情報共有し議論する場としている。しかし、看護師からの計画の提示や疑問、質問などの発言がほとんど見られないのが現状である。【目的】 術前多職種カンファレンスに参加する看護師の実態を明らかにし、今後のカンファレンスの運営の改善をめざす。【方法】 術前多職種カンファレンスの参加対象である、入院から退院までに患者に関わる看護単位（小児病棟・NICU・GCU、小児ICU、中央手術室）の看護師に無記名の自記式アンケート調査を実施した。なお、本研究は筑波大学附属病院倫理審査委員会の承認を得て実施した。【結果】 アンケート回収率は31%であった。多職種カンファレンスに参加したいと考える人は100%であったが、カンファレンスの存在自体を知らないスタッフがいた。血行動態や術前の病態、術式や術後ケアのポイントを理解度に関わらず理解できたと100%が回答していたが、36%が病態や治療の説明を増やしてほしいと回答していた。発言することへの困難感を感じている人が57%で、カンファレンスで発言することに対する自信と知識不足を感じていた。【考察】 カンファレンスで得た内容を基に看護ケアが提供できるようになったと答えており、カンファレンスはケアを洗練する場となりうる。一方、看護師からの発言が少ないことが現状にあり、有意義なカンファレンスとはいえないと考える。看護師の専門的な実践能力、多職種とのコミュニケーション力を育成することで有意義なディスカッションにつながると考えられる。【結論】 多職種カンファレンスは、周術期看護を提供する上で重要である。発言への困惑感を感じている看護師も多く、今後のカンファレンスの運営方法の改善や専門的知識、コミュニケーション力の育成が課題である。

1:00 PM - 1:30 PM (Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP3-04] 新人看護師に対する OJTの有効性-内服薬の投与後の経胃管チューブの閉塞によるインシデントからの考察

○春日 美緒, 佐藤 里絵子, 新井 聡美, 住友 直方 (埼玉医科大学国際医療センター)

Keywords: インシデント, OJT, 内服管理

【背景】 先天性心疾患の治療は、循環作動薬に加え、利尿薬や電解質補正薬の投与が必要である。内服薬投与の場合、経管栄養管理中は経胃管チューブ（以下 NGチューブ）からの注入投与であるが、新人看護師が NGチューブの閉塞による内服薬のインシデントを発生させている状況があった。そのため新人看護師のインシデント発生要因を分析後、NGチューブの内服薬の投与方法に関する、配属部署教育（On-the-Job Training；以下 OJT）（内服薬の攪拌方法、溶解に使用する白湯の温度・量、実際に閉塞したチューブの様子、NGチューブの閉塞が児に及ぼす影響）を実施した。今回、OJTの実施前後での、チューブの閉塞による内服薬のインシデント発生件数と発生要因の変化を明らかにすることで OJTの有効性について考察した。【目的】 NGチューブからの内服薬の投与方法の OJTの有効性について明らかにする。【方法】 対象：OJT実施前（2015年5月～2015年8月）と OJT実施後（2016年5月～8月）に発生した、新人看護師のインシデント8件。調査方法：インシデントの集計記録から発生状況を後ろ向きに調査。分析方法：OJT実施前後のインシデントの内容を発生状況から分析し発生要

因との関連性について考察。倫理的配慮：院内倫理審査委員会にて承認を得た。【結果】OJT実施前のインシデントは8件、OJT実施後は0件であった。発生要因は、内服薬の攪拌不足、水分の温度不適切、水分量不足であった。OJTでは、実際にNGチューブを用いたチューブ閉塞の体験、内服薬で閉塞したチューブの先端の観察を実施。その後、適切な攪拌方法（水分量・温度）、閉塞が児に及ぼす影響について教育した。【考察】経験不足によるインシデント発生要因を理解し、実際に閉塞の体験による具体的状況を示すことがリスク回避につながったといえる。OJTにおいて、新人看護師の特徴を捉えた実践的教育が必要である。【結論】OJTの実施はインシデント発生防止に有効であった。

1:00 PM - 1:30 PM (Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP3-05] 循環器集中治療室におけるクリニカルラダーの見直し

○山田 尚美, 佐野 仁美, 山下 直人, 望月 美佐, 杵塚 美知 (静岡県立こども病院 循環器集中治療室)

Keywords: クリニカルラダー, 人材育成, 成人学習

【背景】循環器集中治療室では、効果的な人材育成を目的とし2012年よりクリニカルラダーを使用している。4年経過し、新人看護師や異動者が多くなり、教育指導の強化が求められてきた。そのため、クリニカルラダーの問題点を抽出し、学習者に即するものに改正することで活用を目指す。【倫理的配慮】A病院の倫理審査で承認されている【目的】クリニカルラダーを改正し、効果的な教育体制を整える【方法】1.スタッフへのアンケートの実施。現在の教育プログラムとクリニカルラダーの活用に関して9項目の内容でアンケートを実施2.アンケート結果と現状をもとに問題点の抽出3.成人学習論から成人学習を捉える4.方法1.2.3に結果よりクリニカルラダーの改正【結果】アンケート回答36名。問題点として、1.クリニカルラダーの自己評価の困難さ、2.評価方法のばらつき、3.学習者の問題、の3点が明確となった。それぞれの問題点に対し、ラダーの内容修正、評価方法の基準設定、評価表の修正を行った。【考察】学習者が問題課題を意識し行動するためには、まず自己の能力を適正に認識する必要があると考える。しかし、成長段階にある学習者が自己を客観的判断することは難しく他者による修正が必要となる。当院では教育指導を必要とする学習者が半数以上を占めており、学習者の能力を適正に評価できていない。今回、他者評価基準を追加したことで、評価方法の統一化が図れた。また、学習者の特性として主体性の低下や課題意識の低下があげられる。成人の学習では自主性が必要である。そのため、学習者が自己の学習計画に参加することで、自発的に行動できると考える。そして、目標達成は自己の成長を実感し自信となり、学習意欲を高めることができると考える。【結論】能力向上のため自己能力を適正に認識することは、目標探求に必要である。学習者が自己の学習計画に参加することは自主的に自己能力向上に努めるきっかけとなる。

Poster(multiple job category) | 心理・プレパレーション

Poster (multiple job category) 4 (III-TRP4)

Chair:Kana Harada(Toho University Omori Medical Center)

Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[III-TRP4-01] 長期入院によるストレスを自傷行為で表現した子どもへの看護ケアの実 際

○岸田 千春, 上甲 貴江, 平野 麻実子 (広島市民病院)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-02] プレパレーションを用いた採血方法の工夫—1歳の拘束型心筋症児への 関わり—

○浜本 知美, 小谷 弥生, 都丸 八重子 (群馬県立小児医療センター)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-03] 重症な成人先天性心疾患患者の終末期の心理的支援—1事例の心理面接 から

○松尾 加奈, 大内 秀雄, 根岸 潤, 鍛冶 弘子, 白石 公 (国立循環器病研究センター)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-04] 術後に活かせる術前訪問の検討

○大石 志津, 杵塚 美知, 簗持 真理子 (静岡県立こども病院)

1:00 PM - 1:25 PM

1:00 PM - 1:25 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP4-01] 長期入院によるストレスを自傷行為で表現した子どもへの看護ケアの実際

○岸田 千春, 上甲 貴江, 平野 麻実子 (広島市民病院)

Keywords: 長期入院, ストレス, 学童期

【背景】重症先天性心疾患患児ではしばしば長期入院が必要になるが、子どもは自分の思いを上手く表現できず、強いストレスを受けていることが伝わりにくい。今回、肺動脈閉鎖、心室中隔欠損術後で肺高血圧、右心不全を伴い、入院中自傷行為が持続した22番染色体微細欠失症候群の10歳女児の事例を経験した。【目的・方法】自傷行為でストレスを表現した重症 CHD患児の経過を振り返り、長期入院が必要となる子どもに対する看護のあり方、看護師の役割を明らかにする。【倫理的配慮】患児と家族に説明を行い、承諾を得、A病院倫理委員会の承認も得ている。【結果・考察】ストレス軽減を目的とした看護ケアとして、まず患児と看護師で1日の時間割を作成し、短時間でもプレイルームや院内学級を個別利用できるよう調整した。厳しい安静度の中、遊びは心身に静的なものを保育士と相談し提供した。次に家族団欒の食事時間を取り入れた。意識的にバランスの取れた食事を摂取できるように食物の栄養素を色分けしたシールを貼って花を作るパンフレットを作成した。偏食が改善し花のシールの色に変化がみられた。さらに学童期の女児である患児が思いを表現するために、看護師や医師との交換日記を提案した。患児は積極的に日記を書いて文章に思いを表出し、次第に話す言葉に思いを表現できるようになった。また患児との関わりに悩んでいた家族に対しては、患児と離れて気持ちの整理ができるための時間を創るよう調整した。環境にメリハリがつき、思いが表出でき始めると患児の精神状態は安定し、自傷行為は消失した。右心不全、肺高血圧も軽快し入院5か月目に退院となった。【結論】入院中でも子どもらしい生活リズムを整えることは重要である。年齢・性格に合わせた看護介入を行い、看護師・医師・保育士がチームで関わることで、子どものストレスは軽減し、自傷行為は消失した。さらには家族の精神的支援にも繋がった。

1:00 PM - 1:25 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP4-02] プレパレーションを用いた採血方法の工夫—1歳の拘束型心筋症児への関わり—

○浜本 知美, 小谷 弥生, 都丸 八重子 (群馬県立小児医療センター)

Keywords: プレパレーション, ディストラクション, 採血

【背景】1歳児は「感覚運動位相」であり、自己の感覚と運動により事象を認知していくため、自己の思考により物事を見る事が出来ない時期である。そのため、必要な検査や処置を受け入れ対処行動を取ることはできない。今回、1歳の拘束型心筋症児に対して行ったディストラクションを用いた採血方法への援助を検討し、患児や家族への看護を振り返ったので報告する。【目的】1歳の拘束型心筋症児に対し、採血時に行ったプレパレーションやディストラクションの看護の実際を振り返り、効果的な方法を検討する。【倫理的配慮】研究の趣旨を説明し院内外で公表すること、個人を特定できないようにすること、研究への参加は自由意思であり途中でも撤回できること、不参加の場合でも不利益は被らないことを説明し、口頭と文書で母親に同意を得た。A病院看護部研究倫理委員会の承認を得ている。【看護の実際】Aちゃんの採血での反応、母親の言動、看護の実際等、看護記録をもとに後方視的に振り返り検討した。初めは看護師が必要最低限の固定をして採血を行ったため、Aちゃんは激しく啼泣し、不整脈や嘔吐等の症状が見られた。抱っこ採血、病棟保育士の遊びの介入、DVD視聴、皮膚表面麻酔薬の導入等のディストラクションを徐々に取り入れて実施した。結果、児からは「アニメを見に行きたい」と自ら処置室に向かうような発言が聞かれ、実施中も啼泣せずに過ごせたり、啼泣しても帰宅時には笑顔が見られるようになった。また、母親へは児の好きなキャラクターや遊びをどのように取り入れるか一緒に考え実施した。「これで泣かずに採血できる」等、満足感のある言動が聞かれるようになった。【考察】感覚運動期に

ある1歳児への採血方法を工夫し、複数のディストラクションを組み合わせ評価しながら行う事は効果的であったと考える。また、母親とより良い方法を検討し、個別性のある環境を整えられたことも有意であったと考える。

1:00 PM - 1:25 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP4-03] 重症な成人先天性心疾患患者の終末期の心理的支援—1事例の心理面接から

○松尾 加奈, 大内 秀雄, 根岸 潤, 鍛冶 弘子, 白石 公 (国立循環器病研究センター)

Keywords: 成人先天性心疾患, 終末期, 心理的支援

〔目的〕重症な成人先天性心疾患(ACHD)患者の終末期は、2、30代という本来なら将来に思いをはせる時期に入院を余儀なくされ、親よりも先に亡くなってしまふことを意識しなければならない。また、精神発達のにも未熟で親への依存もみられる。そのため、重症なACHD患者の終末期に特有のものがあると考え。今回、重症なACHD患者との心理面接過程を振り返り、重症なACHD患者の心理的側面からの理解を深め、どのような関りが必要なのかその支援について考える。〔方法〕20代男性、フォンタン術後患者。面接開始時は心疾患に加え多臓器機能低下により長期入院していた。X年8月～X+1年11月に週1回約50分臨床心理士による面接を実施した。その面接記録を振り返り検討する。本事例を発表するにあたり、ご家族に了承を得て個人の特定ができないようプライバシー保護に配慮した。〔結果〕面接は一般的な心理面接のように自身の気持ちに向き合うことは難しく、ゲームや好きなテレビの話で終わる回もあったが、心理士は語ることを無理強いせず、継続して毎週面接することでいつでも話せる場を保とうとした。小児期に友達と普通に遊んだ楽しい日々を生き生きと語る一方で、成人期に入院が増えた現状を「仕方がない」と冷静に受け止めながらも「外泊だけでも」と訴えていた。病態が急変し集中治療室に移った際には、「死」を受け入れたくない強い思いや、延命処置について家族の希望と異なることへの葛藤が語られた。その後はいつまた急変するか分からない恐怖心を抱え、自身の葬式の話や家族への思いがたびたび語られ、心理士はどうすることもできないもどかしさを感じた。〔考察〕重症なACHD患者の終末期に寄り添うことで、患者自身の「死」への受け止め方、家族との関係などが見えてくる一方で、抱えているもどかしさも感じられた。関わっている医療者が情報だけでなく感情の共有をすることが心理的支援につながると考えた。

1:00 PM - 1:25 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP4-04] 術後に活かせる術前訪問の検討

○大石 志津, 杵塚 美知, 簗持 真理子 (静岡県立こども病院)

Keywords: 術前訪問, 術後ケア, プリパレーション

〔背景〕心臓疾患で手術を行う患者は、術前は循環器病棟で過ごし、術後、循環器集中治療室に入室する。その為、術後のケアに必要な情報を得る事と、患者、家族の不安を軽減する事を目的に、平成20年より術前訪問を実施している。しかし、看護師の情報収集能力に差があり、必要な情報が得られないということや、情報が看護計画に反映されず、看護介入が継続されない事が多い。〔目的〕術前訪問の改善〔方法〕1. 術前訪問用紙の変更2. プリパレーション方法の修正3. 得た情報をケアに反映する為、疼痛・早期離床の勉強会を実施4. 変更後に看護師に質問紙調査を実施〔倫理的配慮〕当院の倫理委員会の承認を得た〔結果〕質問紙からは、循環器集中治療室の看護師の85%が必要な項目を共通認識することができ、情報収集がしやすくなったと回答。プリパレーションの変更は、85%が患者への説明がしやすくなったと回答。疼痛と早期離床の勉強会は85%が参考になったと回答したが、そのうち看護計画の立案ができたのは68%だった。〔考察〕術前訪問用紙を変更したことで、どの看護師で

も、術後ケアに向けた情報収集ができるよう改善された。又、プリパレーションの内容を変更したことで、説明がスムーズにできるようになり、患者、家族も術後の状態、疼痛スケールや緩和のため投薬の必要性、ADL拡大の重要性がイメージできるようになったと考える。しかし、今回の調査で、急性期後の疼痛、早期離床についての看護計画の立案、実施が不十分であることが明確になり、さらなる介入が必要である。[結論]術前訪問の方法を見直し、術後までの看護の振り返りを行ったことで、ケアに必要な情報収集能力は向上した。術後ケアの課題が明確となった。術前術後で病棟移動がある中で、継続看護を提供できるシステムを構築する第一歩となった。